

当社研究室のご紹介



写真：顕微鏡と書籍、生物飼育室

空気も澄み、紅葉も美しく映える時期ですが、冬の足音も聞こえてくる時期ですね。

さて、弊社は長年生物害防除・異物混入防止における現場主義の衛生コンサルタントとしてご愛顧いただく一方で、その経験を活かした異物検査、各種実験や学術研究を行ってきました。

このたびお客様により良い情報をさらに素早くご報告するために、基本的な分析機器と研究室の拡充と改装、および参考資料の整理を行いました。

今月は本誌で弊社の研究室のご紹介をします。

当社研究室の用途

- ・異物検査
- ・委託・検証試験、学術研究
- ・専門書、図鑑、雑誌の保管

当社研究室設備の一部

研究室

光学顕微鏡、実態顕微鏡、
実験機器、カメラ、サンプル

機械分析室

FT-IR、マイクロエレメント
モニタ、簡易DNA分析機器

微生物検査室

小型クリーンベンチ、
インキュベータ

生物飼育室

インキュベータ

書庫

図鑑、専門書、雑誌、書類

弊社では今後も研究室を活用して、お客様に必要とされる専門的なサービス提供を持続できるよう努めます。

異物検査や委託実験等を、より身近に、安心してご依頼いただけるよう、ご希望に応じて研究室をご見学いただくことも可能です（要ご予約）。

ご興味がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



写真：機械分析機器と小型クリーンベンチ

今月の

豆知識

「袋を開けたら虫が飛び出してきた!？」

今回はそんな食品異物混入のご相談のお話です。

食品の中なんて虫にとって最高の環境！袋の中で生きてたんだ！と思いがちですが、実はそんなことはなかなかありません。

弊社で行った実験では、あの最強と言われがちなゴキブリでさえ、さまざまな食品の包装内やティッシュ箱の中では、ほとんどの個体が3日以内に死亡しました（唯一ティッシュ箱の中でのゴキブリは約2週間生存しましたが、汚れやにおいが目立ちました。）。虫は匂いに引き寄せられてきたとしても、

水分や油分の量などが合わなかったり、生活空間が確保できないような製品内に突然閉じ込められてしまうと、中で増えたり、元気に飛び出てきたりするところか、数日も生きることができません（ただし、例外的に長期間保管された製品で貯蔵穀物害虫といわれる虫が乾燥食品で生きて発見されたり、中で増殖したりする事例はあります）。

混入した虫にとっては周りが食品だらけで、きっと幸せだろうと思われるかもしれませんが、実際には生きていくことすら難しいこともあるのです。



東洋産業株式会社

本社

岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL 086-241-8080・FAX 086-241-8094

拠点

大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島・高松・松山・金沢